

会 議 録

会議の名称	令和4年度第5回スポーツ推進審議会
事務局	生涯学習部生涯学習課
開催日時	令和4年10月25日(火) 18時から20時まで
開催場所	801会議室
出席者	会長 田中 幸夫 委員 副会長 本橋 玲子 委員 委員 中川 稔 委員 樋田 和博 委員 野川 春夫 委員 長谷川 貴広 委員 佐藤 里咲 委員
欠席者	委員 服部 啓次郎 委員 檀原 延和 委員
事務局	生涯学習部長 梅原 啓太郎 生涯学習課長 関 次郎 スポーツ振興担当課長 中島 憲彦 スポーツ振興係主査 岡本 康夫 スポーツ振興係主任 津田 理恵 スポーツ振興係主事 西村 謙太郎 ランドブレイン株式会社
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可 <input type="radio"/> 一部不可 <input type="radio"/> 不可
傍聴者数	0
傍聴不可等の理由等	-
会議次第	1 令和4年度 スポーツ推進審議会スケジュールについて 2 第2次スポーツ推進計画の策定について 3 その他
発言内容・発言者名	別紙審議結果のとおり
提出資料	別紙のとおり

田中会長 令和4年度第5回スポーツ推進審議会を開会いたします。
本日は、服部委員、檀原委員が欠席、樋田委員、中川委員が少し遅れて来るということです。
それでは、資料を確認したいと思いますので、事務局から説明をお願いいたします。

(配布資料の確認)

田中会長 それでは、次第に従いまして進めてまいりたいと思います。
議題(1) 令和4年度スポーツ推進審議会スケジュールについて、事務局から御説明をお願いいたします。

津田主任 資料1、令和4年度スポーツ推進審議会スケジュールを御覧ください。今後の予定の再確認をさせていただきます。
本日が10月25日の回で、その下、「計画書案のパブリックコメント(1カ月程度)」とあるとおり、パブリックコメントに出す案を確定させる回となります。
本日、第4章、第5章を含め、計画案の全体を御審議いただきまして、後日、教育委員会の協議後、パブリックコメントを行います。
パブリックコメント終了後に、2月の審議会で、計画書の最終案として計画の内容を確定します。最後に、3月に会長から教育長に答申をいただく予定です。
御説明は以上となります。

田中会長 ということで、今日は大事な審議になります。そして、その後、パブリックコメントを経て、2月に最終案をまとめたというスケジュールになっております。
何か御質問等ございますでしょうか。
こういう案で進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。
それでは、議題(2) 第2次スポーツ推進計画の策定についてということで、事務局から説明をお願いいたします。

津田主任 議題(2) 第2次スポーツ推進計画の策定についてを御説明いたします。

資料2が、計画書の第1章から第5章までの案です。今回、皆様
が新たに御覧になるのは、55ページ以降の第5章で、第1章から
第4章は、これまでの審議を踏まえ、変更しております。

この変更に際しては、田中会長、本橋副会長、長谷川委員に御協
力いただき、先々週、先週と2回の打合せを重ねた結果を反映して
おります。御協力ありがとうございました。

では、御説明をランドブレインさんからお願いしたいと思います。

ランドブレイン株式会社 それでは、資料2の変更点などについて、御説明いたし
ます。

まず、資料2の34ページをお開きください。

前回の審議会では、こちらの第4章についてを中心に御審議いた
だきました。第4章につきましては前回、主な御意見といたしまし
て、施策に対する具体性を深める必要があるという御意見ですとか、
それと関係する御意見かと思えますけれども、前半の第2章などで
中心に記載している現況などの分析結果とこちらの施策との関係
性というところが見にくいといった御意見をいただいていたと思
います。

そういった御意見を踏まえまして、今回の第4章の案につきまし
ては、各施策につきまして、参考事例を追記するなどしてイメージ
を深めたほか、その施策を体系として上げる必要性ですとか主な取
組の具体的な内容について、現況分析結果等を文章の中に加え、加
筆するなど具体化しております。

それに関連いたしまして、前半の現況でも、そういったものを説
明していく上で、必要なデータの加筆といったところも行っており
ます。まず、その加えたデータについて、御説明していきたいと思
います。

資料につきましては、12ページを御覧ください。

後ほど、子どもに関係する施策の中で触れていきたいと思ってい
るんですけども、12ページの下部、小中学校生徒数というところ
、当面増加する見込みであるというところのデータというものを
新たに加えております。

さらに、15ページ及び16ページを御覧ください。

続きまして、障がい者に関するデータといたしまして、15ペ
ージの下部、要介護認定者の推移ということで、近年増加している

傾向にあるということ。

さらに、16ページを御覧ください。

こちらは高齢者に関係するところでございますけれども、65歳以上のひとり暮らしの方というものも近年、増えている傾向にあるといったところのデータを加えております。

さらに16ページの下部、障がいのある人というところにつきましても、障がい者手帳の所持者数などから増加傾向にあるといったところのデータを加えたほか、隣の17ページにつきましては、こちらはスポーツ庁の全国的なデータということになりますけれども、障がい者が運動・スポーツを実施する上での障壁として、赤いところで強調しているところだと、運動・スポーツが苦手であるすとか、やりたいと思う運動・スポーツがない、障がいに適した運動・スポーツがないなど、施策として対応すべき課題に当たるような意見も述べられているといったところを加えております。

17ページの下部につきましては、東京2020パラリンピック競技大会をきっかけとした機運醸成の取組、こちらも市内の取組でございます。こちらを新たに掲載しております。

34ページにお戻りください。

このほか、施策体系につきましては、小金井らしさ、わくわく感を感じられるものとしたといった御意見もございました。こちらを受けた対応といたしまして、34ページ下部の施策体系の中に確認できるかと思うんですけれども、「小金井市の強み・資源」といったものを「基本方針」と「基本施策」の間に横断的に置きまして、基本施策を考える上で、小金井市の強み・資源であるコミュニティですとか自然、組織・人材といったものを生かしていくという考えを加えております。

そうした思いを、前回はなかったんですけれども、施策体系の前半に、文章として改めて込めまして、そういった思いが伝わるような内容と、修正しております。

そのほか、第4章につきましては、目標指標に関する御意見もあったかと思えます。基本目標ごとに目標指標、前回までは全ての施策を統括した指標として、運動・スポーツの実施率というものを掲げていたんですけれども、基本目標3つごとに指標を設定しなければ、評価、進捗管理できないのではないかといった御意見ですとか、基本施策などについては、例えば工程表を定めるなど、具体的

なものを示すべきではないか、この計画をアクションプランとして捉えたときに、そうしたものが必要ではないかという御意見もいただいたかと思っております。

こちらにつきましては、事務局といたしましては、本計画を、運動・スポーツ政策の基本的な方向性を示す、どちらかといいますと、マスタープランに当たるものなのかなという考えがございますので、細かい修正なんですけれども、今、施策体系図の中に見えます、基本方針とあります。3つございますが、こちらは前回までは、基本目標という言い方をしておりました。

今、申し上げたように、マスタープランとしての方向性を示すものというところが事務局の考えでございますので、こちらの言い方を、「基本目標」から「基本方針」と変えるとともに、それに伴う関係で、第4章自体のタイトルにつきましても、前回までは、「目標達成に向けた施策展開」というタイトルだったんですけれども、本日の案では、「基本方針に基づく施策展開」と修正をしております。

なお、その上でも、評価指標につきましては、基本方針ごとにしっかり進捗を管理していくことは必要かなと思われましたので、新たに基本方針ごとに、基本方針1に対しては運動・スポーツの実施率、基本方針2に対しては健康とを感じる市民の割合、基本方針3につきましては公共スポーツ施設の利用者数ということで、それぞれ評価指標を設定しております。

そのほか、第4章に関係いたしまして、同じく具体性というところに関係する御意見ですけれども、各取組を誰が担うのか、役割分担が必要ではないかという御意見もございましたが、こちらについては、本日、第5章を新たに記すことで対応しております。

まず、前回の御意見を踏まえた大きな修正の考え方というところの説明は以上でございまして、これから改めて、第4章の各施策について、変更した部分を詳しく御説明してまいります。

基本的には、計画書内の赤字で書かれた部分を追記しております。

まず、35ページ、基本方針1、誰もが親しめる運動・スポーツ活動の推進というところにつきましては、新たに評価指標として、週1回以上運動・スポーツを実施している市民の割合を加えております。

さらに、基本施策といたしまして、1-1、子どもの運動・スポーツ活動の推進につきましては、現況として当面、子どもの増加が

見込まれるというデータを踏まえまして、2段落目でございますけれども、得意・不得意にかかわらず、運動・スポーツに触れる機会を提供し、健全な子どもが育つまちとしてPRできる魅力的な運動・スポーツ環境づくりを図るため、推進していきたいと考えております。

主な取組といたしまして、1点目の誰もが楽しめる運動・スポーツプログラムの実施につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大前後で子どもの運動機会の低下などが生じ、体力や運動時間の減少が見られるというデータを踏まえ、時間帯や日程、ターゲット等のニーズを踏まえたスポーツプログラムの実施を行っていくという考えを整理しております。

次のページに、もう一つの主な取組である中学校運動部活動の地域移行への対応につきましては、同じく、子どものデータといたしまして、部活動以外の方法で運動・スポーツを実施する子どもが増えておりますので、そうした運動方法の多様化といったところに対応する一つの方策として、中学運動部活動の地域移行というものを位置づけ、図っていきたいと考えております。

続きまして、37ページ、基本施策の1-2、働き盛り・子育て世代の運動・スポーツ活動の推進につきましては、その必要性といたしまして、前推進計画の目標指標である「週1回以上の運動・スポーツ実施率65%以上」というところに関しまして、世代別に見たときに、特に20代から50代の実施率が低い状況にあること、また、20から50代というところは、運動・スポーツ実施状況への満足度も低いということから、特に重点的な対策が求められると考え、位置づけております。

主な取組を2つ記載しておりますが、1点目の働く世代や親子・家族が楽しめる運動・スポーツプログラムの実施につきましては、その背景として、アンケート結果から、30代から50代で家族と運動・スポーツを実施する割合が高いというデータがございましたので、そうしたデータを踏まえ、こちらのプログラムで、子どもだけではなく親も一緒に、また、親と子が同じ会場、場所で運動・スポーツができるプログラムなどを実施していきたいと考えております。

2点目の参加しやすく楽しめる運動・スポーツプログラムの実施につきましては、同じくターゲットとする20から50代につつま

しては、ほかの世代と比較して、午後6時以降、夜間に運動・スポーツを実施する割合が比較的高いということなどを踏まえまして、夜間や休日等、参加しやすい日程・時間帯でのプログラムの実施などを考えております。

続きまして、39ページを御覧ください。

基本施策1-3、高齢者の運動・スポーツ活動の推進につきましては、まず、データといたしまして、市民の平均寿命は周辺市の中で長いというデータがあります。

次のデータはアンケートでございますけれども、市民の健康状態への認識というものは80代以降に、世代別に見ると低下しておりますので、高齢者の運動・スポーツの推進といったものが効果的ではないかと考えております。

主な取組で掲載しております、高齢者のニーズに対応する運動・スポーツプログラムの実施につきましては、70代以降の運動・スポーツの動機といたしまして、「友人・仲間との交流／交友関係の拡大」という割合が高いということ、また、健康への意識が低下する80代以降につきましては、運動・スポーツを「同じまたは近くの市の人が加入しているクラブや同好会に所属して」実施する割合が高いというデータがあります。

それを踏まえると、高齢者が地域コミュニティにおける交流の一環として運動・スポーツを捉えているのではないかと考えまして、地域における仲間づくり・交流から健康づくりにつながるよう、体操などを含め運動・スポーツの実施機会を提供していきたいと考えております。

続きまして、40ページを御覧ください。

基本施策1-4、障がい者の運動・スポーツ活動の推進でございますが、こちらでは主な取組に加筆をしております、先ほどスポーツ庁のデータとして触れたところなどを見ながら、障がい者の運動・スポーツを実施する上での障壁となっている、御自身の体を動かすことができる範囲の違いといった特性ですとか、あと、運動・スポーツが好きでない方、苦手だという方も参加したくなるイベントを実施することが必要だと考えております。

あわせて、これまでパラリンピックの大会を契機に行ってきた、機運醸成等の活動というものをレガシーとして継承し、障がいの有無を問わずに参加できるインクルーシブスポーツの普及も図

っていきたいと考えております。

42ページを御覧ください。

基本施策1の最後でございますが、競技能力・指導力向上への支援、こちらにつきましては、市内にいらっしゃる、資源の一つであるかと思えますけれども、市内に拠点を置く日本郵政グループ女子陸上部や、そのほか、サッカートップチームのFC東京などのアスリート、トップチームといったものが活躍するということが、市民の愛着とか関心、意欲を高めることにつながるという中で、この取組を位置づけていきたいと考えております。こちらは背景というものを新たに追記をしております。

続きまして、44ページを御覧ください。

基本方針の2つ目、運動・スポーツを通じた健康づくりでございます。

こちらにつきましては、この基本方針の必要性というものを赤字で追記しております。アンケート結果でございますけれども、ほぼ全ての市民が、「健康・体力づくり・ダイエット・運動不足解消」というものを運動・スポーツの実施理由として回答していることから、運動・スポーツを推進していく上で、健康づくりというテーマは特に重要であると考え、位置づけております。

真ん中に、新たに加えました評価指標といたしまして、こちらは市が毎年実施している調査なんですけれども、自身は健康であり、日常生活に支障はないと感じる市民の割合というものを、こちらの基本方針の評価指標として設定しております。

基本施策について説明していきます。まず、44ページ下部でございますが、基本施策2-1、健康の維持・増進活動支援でございます。

こちらの必要性といたしまして、データから見ますと、市民が運動・スポーツを実施する際に、先ほどと同じですけれども、「健康・体力づくり・ダイエット・運動不足解消」が主な理由となっていることを踏まえて、健康づくりのイベント・教室を開催していくとともに、それを実際にやってもらうという上では、アンケートで運動・スポーツをしない／できない際の理由として、「仕事が忙しい」「時間的に余裕がない」「面倒くさい」ということが障壁となっているというデータがございますので、そうしたところを踏まえた工夫を図って、活動を推進していきたいと考えております。

47ページを御覧ください。

基本施策2-2、運動・スポーツに興味・関心を持つ機会の充実と情報発信の強化でございます。

こちらの必要性ということで加えたところを読み上げますと、特にふだん運動・スポーツを実施できていない市民の運動・スポーツ実施において、運動・スポーツの楽しさ、面白さに触れるきっかけづくりが重要であること、その上で、様々な時期や場所・時間帯といったところでの、気軽に参加でき、取り組める運動・スポーツイベントの実施というところの充実を図っていくことが必要ということを加筆しております。

データといたしましては、現状、市内の運動・スポーツ関連事業に対する市民の認知度は低いというデータがございますので、こうした取組自体を充実させていくとともに、そうした取組のチャンスというものを市民が逃すことがないように、市内の運動・スポーツ施設・事業に関する情報発信を強化していきたいと考えております。

主な取組の中では、2つ目の様々な広報媒体の活用・連携、広報手段の改善・充実といったところに加筆をしております。情報発信の強化を図る先の効果として、2段落目を加筆しておりますが、情報発信において様々な主体や情報媒体との連携を通じて、市民同士の交流、市内団体・組織の横断的な協力関係づくりというものを促進し、市内の運動・スポーツ活動を、市内に存在する団体同士、市民同士というものが助け合い・支え合う関係の構築といったところにもつなげる視点で取り組んでいきたいという旨、加筆をしております。

49ページを御覧ください。

基本方針の3つ目、運動・スポーツ環境の充実でございます。

こちらにつきましては、データに基づきというよりも、市内に現在、存在する施設や団体さんとの連携といったところの内容となっておりますので、前回からの加筆というものは特段、行っておりません。

僅かに、52ページのところになるんですけれども、主な取組、スポーツ関連団体等との連携推進といったところは、具体的に連携する団体といったものが明確になったほうがよいかと思いますので、具体的な連携が想定される団体・組織などを加筆しております。

第4章の説明については一旦、以上とさせていただきます。最後に、第5章について、御説明いたします。

「計画の推進にあたって」ということで、53ページに推進体制、55ページに進行管理の考え方というものを示しております。

まず、53ページ、推進体制につきましては、現在、具体的な役割、主体として、教育委員会、黄金井倶楽部、体育協会、スポーツ推進委員、指定管理者、そして地域という6つの主体を想定し、それぞれの役割というものを記しております。

まず、小金井市教育委員会につきましては、本計画を策定し、計画に基づく事業を行っていくということ、基本理念に掲げております「豊かな生涯を運動・スポーツとともに」過ごす市民を増加すべく、庁内での連携のほか、黄金井倶楽部、体育協会、スポーツ推進委員との連携というものを通じ、市民の運動・スポーツ活動を支援していく役割というものを記しております。その上で、黄金井倶楽部と体育協会の役割が十分に果たせるよう条件整備をするほか、それらの機関と市民が協働して運動・スポーツ事業が実施できるよう調整機能なども担うという旨、記しております。

続きまして、黄金井倶楽部の役割でございます。

地域住民が主体となって運営するスポーツクラブとして、今後さらに市民に認知され、会員増加のほか、スポーツを通じて、黄金井倶楽部が自立的かつ継続的に運営されていくことが期待されるという役割を記しております。

続きまして、54ページをお開きください。

体育協会の役割につきましては、運動・スポーツに関する各種事業を展開することにより、市民の健康増進及び体力の向上といったところを今後も担っていく期待というものを、1点目に記しております。

また、もう一つの役割として、競技スポーツ団体の統括組織といたしまして、ジュニアスポーツの育成、シニアスポーツの普及、加盟団体の増加及び組織強化を進めることとともに、競技者や指導者の育成支援といったところが期待されるという役割を記しております。

続きまして、スポーツ推進委員の役割につきましては、ニュースポーツやボッチャ等、幅広い市民が参加できる運動・スポーツ教室等の事業を積極的に展開することで、市民の運動・スポーツ機会の

提供、健康・体力づくりを担っていく役割が求められること。さらに、それを広げるという上で、今後は、運動・スポーツを行っていなかった人が気軽に参加してもらうための企画立案などが求められるという旨、記しております。

指定管理者につきましては、引き続き、施設の管理運営を適切に実施するとともに、市民のニーズを踏まえたプログラムを一層提供していくことが望まれること、また、施設運営のノウハウというものを、教育委員会、運動・スポーツ団体と連携の中で生かしていただき、市民の運動・スポーツ推進を進めていくことが求められると記しております。

最後、「地域」といたしまして、住民や企業・大学等の役割という中で、強みである自然やコミュニティ、施設、人材という特性を生かし、気軽に参加できる運動・スポーツを実施していただき、市民の運動・スポーツのきっかけづくりというものを進めていくことが求められるという役割を記しました。

最後、55ページでございますが、こうした計画の進行管理の考え方を記しております。

各施策の進捗状況につきましては、一般的にPDCAサイクルと言われる方式で進行管理を行いたいと考えており、計画を実行に移した効果・成果といったものを適宜点検しながら、必要な改善を図っていくという考えを記しております。

具体的な内容として、効果・成果の点検・評価といったところにつきましては、関係各課との情報共有を図りながら、年1回の点検・評価といったものを実施していきたいと考えております。

その段落の5行目から、「なお」というところがあるかと思えます。本計画につきましては、令和12年までの8年間の計画となっておりますけれども、その間に、関連法制度や上位関連計画の変更・見直しがあった場合、本市の運動・スポーツ推進に資する新たなプロジェクトが具体化した場合など、本市の運動・スポーツを取り巻く社会経済情勢に大きな変化が生じた場合については、予定している時期にかかわらない柔軟な見直しも行っていきたいと考えております。

以上で、第4章ほかにつきましては、いただいた御意見を踏まえ修正した内容、新たに記した第5章につきましてはの内容説明は以上とさせていただきます。

田中会長

ありがとうございました。かなりボリュームがあるものなので、第4章から第5章にかけて、特に第4章は大分、皆さんも触れていたことから、手を入れてありますので、御意見等ございましたら、名前を言って御発言をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

第4章、基本施策1－4の障がい者の運動・スポーツ活動の推進というところで、40ページの辺り、データも踏まえ、こういう文章を作っているんですけども、佐藤委員、感想とか御意見等ございませんか。

佐藤委員

個人的には、大学のほうでもパラスポーツの団体をやっております、気軽に参加できるというところが重要視されていると思うんですけども、その上で、イベントなどを開催しても、なかなかそこに参加してくれるに至るまでが結構難しく、そこにつなげるにはどうしたらいいかというところを、大学のほうでも結構、難しいところではあるんですけども、参加してくれるには、パラスポーツであったり障がい者に対する意識というところで、皆さんの目にする機会というのをもっと多く増やしていったほうがいいかなと話合いがありまして、パラスポーツを実際にイベントなどですること大事なんですけど、日常から外でイベントを開催して、人々が目にする機会というのを多くしたりですとか、パラスポーツが日常化することが大事だと思うので、参加しやすくしていくということに関して、こういった参考事例もすごく必要だと思いますし、あとは、どういった経緯、経由で参加できるのかというのを、例えばホームページの画面をここに掲示して、どのように参加できるかというところをもっと提示していくことが必要なのかなと、個人の意見になってしまうんですけど、ちょっと思いました。

田中会長

ありがとうございます。スケジュールというか、障がい者スポーツとか、見るにしても参加するにしても、いつやっているんだろうとか、年間の中で、このぐらいの季節になるとこういうものを行っているのかというのが、ある程度分かると、非常に参加しやすいというのがありますので、いきなり1か月前に市報とか来ても、なかなか分かりづらいというものもあるかもしれないですね。

そういうことも含めて、やっぱり意識もあるけど、どんなものを行っているんだろうというのを、ほとんどの市民の方はあまり分からないかもしれないので、だから、本当に見ることから、一緒になるということもまた少ないじゃないですか。だから、そういう機会が限られているかもしれないですね。僕らもそうですけど、そういうチャンスがありますよという、イベントをぽんとやってくればまだあれなんですけどね、確かに。

すみません、逆に大学で、障がい者の方のためのスポーツのイベントとか、何かやられているというのは、どういうときにやられているのか、ちょっと教えていただければ。

佐藤委員 大学では、例えばつい先日、10月の頭に、大学生同士でパラスポーツの運動会というものをやりまして、大学生同士も交流する機会というのが生まれて、そこから、やっぱりパラスポーツを体験することで初めて、楽しさだったりというのに気づくことができるので、ただパラスポーツ体験会を開催しても、なかなか参加してくれないので、運動会だったり、大学生同士が交流できる機会というのも併せつつイベントを開催すると、参加率もすごく高くなって、同時に、やっぱりパラスポーツは体験して初めて、楽しさだったり分かるので、そこからまた次のイベントにつながるということはよくあります。

あとは、定期的に、パラスポーツ体験会をふだんから行うこともそうなんですけど、オンラインとかでも、障がい者に対する意識のセミナーではないんですけど、実際にパラスポーツのパラリンピックのアスリートの方に出演していただいて、Zoomで講演会を行ったりですとか、そういうこともふだんからやっています。

田中会長 ありがとうございます。

長谷川委員 大学生がやられるのは、どこ向けになるんですか。

佐藤委員 一応、いろんな方にやってもらいたい、パラスポーツを知ってもらいたいということでやっているんですけども、あとは、ふだんですと小中学校のほうに出張という形で出向いて、パラスポーツを実際に大学生と一緒にやるというところもやっているの、子ども

から、あとはふだんの地域での、例えばボッチャ教室のほうに出展して、一緒に高齢者の方だったり、そういった方と交流してパラスポーツをするというのもあるので、世代は結構幅広いかなと思います。

野川委員

今も含めて、恐らく、ユニバーサル化という言い方があるので、パラはパラだけでやるということとかシニアはシニアだけということではなくて、交流できるようなものを入れたほうがいいのではないかなというのが1点。

先ほどの御意見にありましたように、参考事例のところにURLとかQRコードを載せて、すぐ、どこでやっているのかが分かるような書き方しておく、非常にいいのではないかなと思います。

あとは、イベントだけでやるよりも、できれば定期的にパラスポーツ、障がい者スポーツを、38ページにあるような書き方にして、参考事例で、どこで、いつ、幾らぐらいという情報をもし入るのであれば、それらを入れておくと、非常に見える化が進むのではないかなと思います。

ついでに言いますと、例えば黄金井倶楽部の親子体操教室は、いつ開催しているのかが分からない。それから、どのくらいお金がかかるのか、場所はどこでやっているのかも分からない。こういう情報を全部、「スポーツ個人開放校」というところに書いてあるように、具体的にいろいろな情報がこの中に入っていると、市民の方々にとって非常に分かりやすいのではないかなと思います。

もう一つは、36ページの中学校運動部活動の地域移行への対応が、これは非常に内容が乏しいと思います。

あとは、その次の37ページに、働き盛り・子育て世代の運動・スポーツの活動を本気で推進しようとするのであれば、場所がないとできない。場所のことが何も書いていないということは、頑張ろうねと言っているだけで終わっちゃっている。

その辺のところを、3Mという言い方をしますけれども、お金と人と、それから場所、これらを上手に書いていないと、推進はなかなか難しいのではないかなと思います。

以上です。

中島課長

今、佐藤委員と野川委員から、貴重な御意見をたくさん頂戴いた

しました。

パラスポーツにつきましては、我々のほうも、ユニバーサルスポーツとして普及に努めているところでございますが、そういったところをどういった形で、実際は申込みができるのか、そこにつながるまでも大事なのではないかというような御意見かと感じておりました、我々として、一番情報発信の部分が弱い部分なのかなとも感じておりますので、真摯に受け止めて、その辺も改善していけたらいいなと考えております。ありがとうございます。

また、野川委員からも、全体的に交流できるような形でスポーツの普及をしたほうがよろしいのではないかということで、我々のほうも、対象はこの方というのを絞っているようなイベントもあるのはあるんですけれども、いろんな幅広い世代の方にも参加していただきたいというような思いのイベントも実はあります。

この参考事例は、各施策ごとにそれぞれ載せさせていただいているところではありますが、その施策に一番近いものを参考事例として載せさせていただいているんですけれども、実際はいろんな方にも参加していただきたいというようなイベントも、この中には入っております。

1-2の働き盛り・子育て世代の運動・スポーツについて、特に3Mということで、場所の記述がちょっと弱いのではないかということで、そうですね、主な取組のところに特段、具体的には書いておりませんが、参考事例は、ジュニアサッカーフェスティバルだけではなくて、次の38ページも、実はそれに対応しているところでありまして、スポーツ個人開放校については一応、こういった場所で行っているよということで記載をさせていただきました。

また、こういった記載は、野川先生から、ほかの施策においても行ったほうがいいのではないかというようなお話もいただきました。

参考事例のほうを、そういった形で載せられるようなものがあるのかというのは、再度こちらのほうでも確認して、できるだけそういったものにも対応していきたいと考えます。

また、参考事例にURLや2次元コードを入れたら、すぐにそういったものの情報にアクセスできるのではないかという御意見もいただきました。確かに、そういった形で載せると、非常にこのプランも充実したものになるなと感じてございます。

そちらについては、できるかどうか、今、ホームページ、飛んだ先のものがまだ全然充実しているようなものになっておりませんので、その辺の整理からやっていかないとちょっと難しいかなと考えておりますが、貴重な御意見として、今後の参考にさせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

田中会長

事前の打合せのときも出ましたけれども、やはりホームページとか、今風に、携帯を使ったり、パソコンから入ったりして、簡単に言えば、体育館の予約をしたり、運動場の予約をしたり、テニスコートの予約をしたりということをしてもらいたいということは話したと思うんですけども、今のところ、そういう基盤整備がまだできていない状況なので、そこら辺も含めて、本当に情報発信、あるいは情報発信したら受け止める、そこら辺を基本的に進めていってもらいたいと思います。

簡単に行けないんですね、いろんなものが。だから、何とかその辺をやってもらいたいなというのはあります。

そういう意味で、情報発信の強化とかそういう文言を入れてもらって、何とかもうちょっとプッシュしてもらえたらなという話は、先日もしたことです。

事前の打合せでは、もっと他の課に関わるようなことを載せてもいいんじゃないかと僕は言ったんですけど、なかなかそうもいかないらしくて、そんなことは、本当のことを言うと、市民は知ったこっちゃなくて、上手に情報をもらって、上手に情報が出てくればいいわけで、このことは何々課だよというのは、私たちの目から見ると見えないことであり、そんなことは必要ないことなので、ですから、そういうものをうまく取っ払いながらやってもらいたいなというのはあります。

そうすると、皆さんももっともっと、どこでやっているんだというのは、やっぱりすぐ分からないと、いつやっているのか、大体、1年間の計画というのはできていると思うんですね。突発的には、特に公のものは、しないと思うので、ほぼ1年間の計画があって、分かっている、そういうものに従って、参加したいと思ったときに、あれっ、簡単にプチッといきたいんだけど、プチッがなかなか、今のところ小金井市では進んでいないので、何とかしてもらえれば、

ますます皆さんも参加できるんじゃないかと思います。よろしく
願います。

中島課長 今、ホームページ等の情報発信のことについて御意見を頂戴いた
しました。今回の第4章、34ページのところを、赤字で、後で「情
報発信」という言葉を入れさせていただいて、当初から、ここに關
しては力を入れたほうがいいのではないかと、こちらの審議会のほ
うからも御意見をたくさん頂戴しておりましたので、やるぞとい
う意気込みを、この施策のところに言葉で入れさせていただいて、推
進計画の中では、情報発信については特にしっかり進めていきたい
と考えておりますので、頑張りたいと思います。

田中会長 よろしく願います。

野川委員 1点、質問してよろしいですか。
37ページのところで、20代から50代は午後6時以降に運
動・スポーツを実施する割合が比較的高いと書いてあるんですけど、
小金井市では、6時以降のウォーキングパスとか、ジョギングコー
スとか、そういうものは用意されていますか。

中島課長 ウォーキングパスやジョギングコースというのは特段、夜間のと
ころでここというのは示しておりませんが、例えば、スポー
ツ個人開放校というものが38ページに載せてあるんですけども、
こういった学校に行って、団体登録は必要なんですけれども、
そういったところで夜間、夜まで、例えば卓球や、こういった種目
をやることができたりとか、テニスコートを夜間に開放している部
分もございまして、そういったところでも活動していただきたいと
いう思いはあります。

野川委員 一番参加の多いのがジョギング、ウォーキング、ランニングと書
いてあるんですね。多分、6時以降だと30分ぐらい、ちょっと
腹ごなしに歩きたいとか、それから、軽いジョギングをしたいとい
うときに、怖いところ、危ないところというのをできるだけ避けたい
ということであれば、やはり小金井市のほうで、ここからこの辺
のところがいいですよというコースの提案を、今やる必要はないん

ですけど、今後はそういうものを、開発するとよいですね。

公園の中だったり、国立大学の中だったら多分、門がずっと開きっぱなしだから、行ける可能性があるんで、そういう場所を含めて、小金井市はここだったら安全だよとか、この辺のところはいいねというようなことで、みんなが歩いたりジョギングし始めると、非常に有効活用になると思います。アイデアです。

中島課長

野川先生、どうもありがとうございます。新しいアイデアだと思います。夜間に特化した地図というのは、今のところ、確かにございませんので、新しいアイデアだなと思ってお聞きさせていただきました。

ページで申しますと46ページに参考事例として、小金井てくてくMAPという事例を載せています。

野川委員

これは、いいですね。

中島課長

こちらは昼間、夜間といった時間帯は特段、設定しているものではございませんが、こういったコースは作って、皆さんに提供させていただいているところでございますが、今日、いただいた御意見も非常に、夜間は確かに、この中が、暗いところではなくて、明るくて安全なところを歩けるようなマップがあると、今後、市民の方々にそういったものを活用できるのかなとも考えますので……。

野川委員

考えてください。

中島課長

貴重な意見として頂戴いたしたいと思います。ありがとうございます。

田中会長

てくてくMAPというのは、ここに、健康課とか観光まちおこし協会が作成したと書いてあって、それこそ何キロ推奨コースとか、ここを一周回ると何キロですよとか、そういうものも入っているんですね、きっと。そこには手を出せないと、この間、言ったんですよ。

だから、そういうのを取っ払って、生涯学習課でもアクセスできるとか、だから、先ほど言ったように、市民はそんな、どこが管轄

しているとかそういう感覚はないんだから、こういういいものをみんなが共有できるような仕組みとその発信をしていただければ一番いいかなと思います。

そうすると、例えば30分コースは、貫井の北のほうではこんなところがありますよとか、前原の下のほうではこんなところはどうですか、でも、夜はちょっと明るいところを歩きましょうとか、そういうことは、下地はせつかくあるので、こういうものがオープンになっていくと非常にいいんじゃないかなと思いますね、以前から言っているように。

今の季節だったら紅葉がきれいなコースとか、春だったら桜がきれいだとか、夏は暑いから日陰がいっぱいあるところとか、そんな四季折々の何かをやって更新していったら、みんなもっと、こんなところへ行ってみようかなとか、今日は元気だからこうしようかなとか、あると思うので、ぜひぜひこういうものを活用していただければ。もったいないと思うんですよね。

中島課長

今、田中会長のほうから、てくてくMAP等の、様々な季節ごとに歩くコースなども設定してみないかというようなお話を頂戴いたしました。ありがとうございます。

また、こういったものは健康課、まちおこし協会が作成したと書かせていただいているんですけども、今後に関しましては、我々スポーツ振興担当のほうも、こういった他課とも連携していった情報発信、皆様にスムーズに情報を届けられるような形でも、情報発信の中では考えていきたいと考えておりますので、つなげていきたいと思います。

長谷川委員

前回のこの会議の場で、フィードバックとして、もっとわくわくする内容にしたいというコメントをさせていただいて、その後、追加でお時間をいただいて、この資料にその思いを込めていただいて、それが反映された結果だなと感じています。本当にありがとうございます。

特に34ページのところで、リード文を含めて、こちらの気持ちを込めていただいているところなので、本当に何回読んでもうれしくなるような文章にさせていただいているんですけども、市民を中心とした地域の豊かな「コミュニティ」、公園や水辺等の「自

然」、学校や企業等の「組織・人材」という、小金井市の強み・資源を最大限活用したものとすることで、本市で運動・スポーツをする「喜び」や「楽しみ」を感じられるようにして、本市への愛着、本市で暮らす魅力を育んでいただきますという、この文章は本当に、小金井市民としてもすごくうれしいですし、響く内容だなと思っています。

この下の図のところで、「小金井市の強み・資源」と縦串を入れていただいたというところがすごくポイントだと思っていて、横に並ぶ「基本施策」というのも、縦串でうまく相互連携していけるのかなと考えながら聞いていました。

先ほどの障がい者の運動・スポーツのところで、それこそ大学生の皆さんがいろいろ取り組まれているところとの連携だったり、もちろんそこには情報発信も含まれてくるんですけども、基本施策で書かれている内容が、それぞれ個別に動いていくということじゃなくて、関連性を持ちながら動いていけるような形で、表現を変えるところまでいくのがいいのかどうか、分からないんですけども、私の中では、この縦串があるので、そこがうまく関連性を持ってくれているなと思っているので、そこで認識が皆さん合えばいいかなと思っていますけれども、それこそ、実施のタイミングになりましたら、情報発信のところなんかも、ぜひ地域で活躍されている大学生のノウハウをいただいたり、SNSとかで情報発信の仕方は、若い子たちのほうがすごく上手にやるので、こちらで発信した情報をうまくSNSで取り込んでくれて、またそれを広げてくれたりということで、大学生の力なんかを借りられるといいと思いますし、大学の施設を借りるだけという形の連携の仕方じゃなくて、人材の部分というのを、そこの力を逆に借りて、大学生からすると、地域貢献の場が提供されて、そういったところで相互連携していくような形になっていくと、小金井市としてのうまみだったり面白みというのをつくり上げられるんじゃないかなと思って、何となく私は、この図でじっくりくるところであるんですが、うまく、基本施策のそれぞれが相互連携しているんだよというところが、伝わるという思いで聞いていました。

障がい者のところでも、情報発信はもちろん併せてやっていくということだと思うんですね。その強化は2-2の項目なんだと思いますし、だから、1-4の障がい者の話も、2-2の情報発信のと

ころで連携しながらやっていくということだと思うので、あえて、障がい者側に情報発信をちゃんとやっていきますなんて書かなくてもいいかなと思うんですよね。ばらばらに動くのではなくて、本当にそう思いました。

中島課長

今、長谷川委員からの御説明にもありました、施策体系の中で、この図の中で、「小金井市の強み・資源」ということで縦串を入れさせていただいた思いは、長谷川委員のおっしゃる内容とほぼ同様の意味合いで入れさせていただいております。

それぞれ、「基本方針」からそのまま「基本施策」にラインがつながっておりますが、その中間に入れさせていただくことによって、それだけではなく、「コミュニティ」、「自然」、「組織・人材」も、強みを生かしながら推進していく。また、各施策はそれぞればらばらに存在するのではなくて、例えば、先ほど見ました情報発信につきましても、2-2のところだけでやっていくというわけではなくて、全ての部分には共通する内容だろうなということ考えております。

また、ここは縦串を入れたことによって、そういったまとまりが体系図の中では出てきているのではないかなと、事務局としては考えているところでございます。

皆さんも何か御意見があればお聞きをしたいと思います。どうもありがとうございます。

野川委員

今の34ページのところで気づいたんですけど、3の「公共スポーツ施設の利用者数」と書いてあるんですよね。スポーツ基本計画の第2期と第3期は、公共スポーツ施設だけではなくて、オープンスペースなどをもっと活用しなさいということが書いてあります。したがってオープンスペースという表現を入れられたほうがいいのではないかなという気がします。

スポーツ基本計画との整合性ということもありますけど、あとは、ストリートダンスみたいなものがこれからどんどんはやってくると、スポーツ施設でなくて駅前のオープンスペースで、広場でやったりするわけですよね。これらもオープンスペースですし、そういうのも含めての、公共スポーツ施設と限定しないで幅を広げてもいいのではないかなと思ったんですけど、いかがでしょうか。

中島課長

今回、こちらに指標を入れさせていただいたのは、年1度、必ず取っている数字を、ちゃんと測れるものを評価指標に選びました。

その中で今回、そういったオープンスペースも含めてカウントできれば、もちろんそのほうがよろしいのかなという思いはあるんですけども、実際に今、我々、市がそういったデータを持ち合わせていないというか、歴年でデータを取れる部分が、今のところ、公共スポーツ施設での利用者数ということになってしまっていて、今回の基本方針3の傾向、この方針のほうを、ちゃんと進んでいるのかという部分で見るためにおいては、こちらの数字をもって観察、推移を確認していきたいと考えておりますので、その辺、データの取り方として、将来的に、またそういったものが取れるようになって、そういったことが可能になれば、ぜひ入れさせていただきたいなと思うんですけども、今現在ではこちらのデータで、推進計画のほうはつくらせていただきたいという思いがあります。

野川委員

別に反論ではありませんが、スポーツ庁のほうも、これまでオープンスペースという項目はなかったんですけども、アンケート項目に、どこでやっていますかというところに、オープンスペースを入れれば、それで済む話で、別に、どことどこをオープンスペースに決めて何かしましょうよというのは、ちょっと違うかもしれないですね。

単なる意見です。お答えにならなくて結構です。

田中会長

そのほか、何かございますでしょうか。

中川委員、体協の働きみたいなものを書いてあるんですけど、どんなものですか。

中川委員

今日はちょっと時間が遅れて、頭の中がまだ整理できていないので、申し訳ございません。今、皆さんの意見で、最初の部分は自分も意見で出したと思うんですが、施設、場所、時間ということで、そうなれば、各年代がそれなりのレベルで共通した、自分のやってみたい競技に出くわすチャンスというのはあると思いますので、それをいかに組み合わせるかという形では、今後、いろいろ総合的なシステムでやっていかれるというニュースも聞いていますので、そ

れをぜひ充実していきたいと。

あと、自分たちとしては、これもお話ししたことがあるかと思うんですが、シニアスポーツフェスティバルで、今までは一定の加盟団体のお披露目的なイベントであったんですけども、今年、居合道というような形でやっていただいたことについて、参加いただいた方たち、ほかの競技団体も興味津々という形で、そういう異競技というか、触れるチャンスというのも、団体としては、いろんな競技を持っているわけですので、それをチャンスとして、まずは見るということ、見ていただく、そのうちに、先ほど言った内容で、これはどこでやっているんですよということについては、今日のお言葉で、QRコードとかやっていくのは、今の時代ですと即、皆さんスマートフォンを持っていて、引っ張り出せるというような状況ですから、そういう形で、体育協会としても発展していかなければいけないかなということで、今、体育協会としては、今年3年目のコロナを乗り越えて、各大会でそれなりの成績を上げてきた人を、どれだけ新春のつどい等で発表できるかというようなことで、今、団体としてはそういう形で、データ集め的なことをやっておりますので、今日の話題に関する自分の答えになっているかどうか、ちょっと失礼なんですけど、そういう形で進めていきたいと思っております。

田中会長

ありがとうございます。

この話題と直接関係あるかどうか分からないんですけど、でも、小金井市の強み・資源というところで、コミュニティ、自然、組織・人材というのが強みですよという中で、これを具体的に示せるようなものがあるのかなとちょっと思ったんですけど、思いつきなんですけど、例えば、市民大運動会みたいなものはあるんですかね。過去、あったんですかね。

中川委員

運動会というか、自分の年代で、小金井は18歳からですけど、本格的には38歳以降で、運動会というよりは、綱引き大会が自分は印象になります。

運動会といっても、市民体育大会で、総合開会式を上水公園で行っているときは、各競技団体のユニフォーム等での行進、それから、大学からのイベント的にバンド行進というようなことで、運動会と

ということになると、今はスポーツ少年団が、11団体から9、8と減っていますけれども、今年も11月23日、これは定期的です。毎年11月23日と決まっていますけど、上水公園で運動会、これはチーム対抗での競争、中ではキャタピラーとか、いろんな競技が入っています。

それを野球少年団、それからサッカー、卓球、ミニバスケットというところの、今、総合的には2種目になってしまっていますけれども、その団体が学年ごとに競うということはやっています。小学生から中学、高校、一般、シニアというところでは、小金井での経験はちょっとないです。

田中会長

分かりました。ですから、老いも若きも、障がいのある人も、皆で小金井市の施設を使って何かできないかなみたいな、競争とかそういうものじゃないんだけど、競争みたいになるかもしれないけど、レクリエーション的なものをする、あるいはそういうものを、スポーツ団体とかそういうものだけじゃなくて、よく田舎のほうに行くと大運動会をやったり、地域ごとの、みんな集まって何かやるとか、そういうイベントもつくっていくというのもいいんじゃないかなみたいな気が、ちょっと思いついたんですけど。

中川委員

自分が住んでいるところで、自治会対抗運動会というような催しで、エリアごとでの、年代別リレー対抗、自分も孫が幼稚園のとき、園児から小学校低学年、小学校高学年、中学で、あと、20歳から。

最終的には50歳以上という年代別で、男子、女子で競い合った。余談になりますが、孫が幼稚園で走って、息子がお父さんの代で走って、私、50代で走ったんですが、競うことなく、自分のペースで最後まで走れる状態で、ペケでゴールしたという経験があります。それも各自治会対抗で、8から9ずつですかね、各エリアでやっているということです。今、話していてちょっと思ったのは、前原町は、地区運動会がなかったかな、ちょっとごめんなさい、調べてみたいと思います。

本橋副会長

南中でやっていますけど。

中川委員

ありますよね。コロナでちょっと今、お休みになっていますね。

本橋副会長 梶野町もあります、第三小学校で。

田中会長 みんなやっているの。

本橋副会長 はい。第三小学校で、自治会でやっています。

中川委員 ここ数年、お休みになっていますけど。

本橋副会長 10月に三小の校庭を借りて。

田中会長 大市民大会や大市民運動会。

中川委員 そうですね。すごく楽しいことで。

田中会長 競争するとけがすることも、競争しないというか、ゲーム性が高いものがあると思う。

中川委員 だから、玉入れなんかもあったり、あと、パターゴルフ。

野川委員 いろいろなことがあると思うんですけど、多分、会長がおっしゃっていたのは、チャレンジデーというイベントが毎年5月の最後の水曜日に、同じ規模の市町村同士が契約をして、朝6時から、たしか夜中の11時ぐらいまでだったと思うんですけど、どんな運動・スポーツ、レクリエーションでもいいから、20分以上やった市民・町民がどのぐらいいるかというのを、どんどん投票させて、市対抗というのがあるんですよ。

日本の中だけではなくて、海外の市町村とも競争するイベントです。

中川委員 それはチャレンジデーではなかったですか、5月の最終土曜日だったかな。

野川委員 水曜日です。

中島課長 そうですね。以前には小金井市でも、実際にそれに参加してやったということがあったと思います。

中川委員 小金井は勝ってやめちゃったんですよね。

野川委員 お金をかけると出ないから、チャレンジデーみたいなものもいいかもしれないんですよね、やるのであれば。

中島課長 参考までに、外でやっているわけではないんですが、総合体育館の中で、スポーツフェスティバルというものも開催しております、それは比較的、老若男女どなたでも、インクルーシブスポーツ的なスポーツを、7種目ぐらいだったかな、を一遍に開催してもらって、今はコロナの中で、参加者の方は制限させていただいているんですけども、以前は、自由にその場に来て、小さな子からお年寄りの方まで、誰でも参加できるような形でスポーツを体験できるようなイベントも、市のほうでは開催しております。

 実際、私もこの秋、参加してきました、体を動かしてまいりました。非常に面白いイベントだなと個人的には感想を持っています。

田中会長 インクルーシブ、そういうふうなスポーツというか、競争ではないよね。そういうところにみんなが来られるといいなと思うんだけど、のろしを上げて、やるぞ、みんなで楽しもう、みんなで弁当を持ってこいというふうな、昔の村とか町かもしれないけど、そういう何かがあったらいいかなと、さっき言ったけど、思いつきだったので、でも、あったらいい。世代もみんな関係なくできるようなことが、あるいは交わることができるとか、そういうことも考えたほうがいいんじゃないかなと。

中島課長 ありがとうございます。今後の事業をする上で、参考にさせていただきたいと思います。

田中会長 それは、さっき野川委員からも出たけど、これだけ見ていると、年齢とかでびしっぴしっとなるような感じも受けるよね。この施策もそのような表現をしているので、とはいえ、また長谷川委員も言ったように、縦串でうまく、自分も、統括していると考えているん

ですけれども、その統括している何かが象徴されるようなイベントとか何かがあれば、それこそ誰でも参加できるというようなものを、小金井市が頑張る。

大学生も巻き込む。最近、大学生は学祭もやらないですから、やれないです。企画とかも、今はできないじゃないですか。こうやっているうちに、実行委員は何をやったらいいか分からなくなって、工学部は特に、小金井の工学部はやめちゃった。府中だけでやる。こっちで学祭をやっている、こっちはすごいですよ。下手すると授業をしたりする。だから、そういう人たちを上手に巻き込んだりするといいんじゃないかな。ついでに、グラウンドを貸してください、ここで空いているでしょうと。学部長には言ってきましたから。

中島課長 ありがとうございます。

田中会長 連携してねと。
では、そういう視点を忘れないでほしいなど。

長谷川委員 ちょっと追加で、基本方針3の運動・スポーツ環境の充実の辺りで、49ページから52ページの内容のところ、地域包括連携協定みたいな部分をもう少し前面に押し出せたりというのは、難しいですかね。

一番そこがやりたいところで、西岡市長と包括連携協定を結びましたまでは入っているんですけど、結んだ協定施設と、何を具体的にやりましたと実績をつくっていききたいし、具体的な連携した事例みたいなものを、結果として報告していけるといいと思うんですね。

なので、実際、地域包括連携協定を結んでいる大学とか、イトーヨーカ堂もそうだと思うんですけど、その一覧はホームページに書いてありますね。

なので、実態としてあるわけだし、ただ、それが連携協定を結んでいるだけに見えていて、そこを、例えばテクノスカレッジは、体育館開放みたいところで動きがあるというのは見えるんですけど、では、農工大と連携協定を結んでいるけど、何かやっているんですかと言われたときに、答えられるものがないし、学芸と何かやっていますかと言ったときに、結んでいるけど何もないしということに、やっぱり事例をつくっていききたいんですよね、スポーツと

いうものを通して。

なので、そこを目標として掲げるためにも、地域連携協定があるということも市民には認知してもらいたいし、そういうワードを含めたほうがいいんじゃないかなと思います。

ちょっと私の思いつきにも、そこは強調したいなと思うんですけども。

中島課長

ちょっと参考までに、包括連携協定は、実は各学校と、市の企画政策部門が中心となりまして連携しているもので、スポーツだけに特化したような形で協定を組んでいるわけではないので、様々な内容で、市としては、包括連携協定を組んで何かをやっているかというものは、毎年のように実績を積み重ねて、情報としては企画政策部門で持っているだろうと考えております。

その中で、スポーツに関連するところでどういった成果があるかということに関しては、一部、参考事例としても載せさせていただいておりますが、この先、連携というのは、包括連携協定を結んで、実際に何をやっていくかというところの具体的なものを書くに当たっては、やはり相手のある話にもなってしまいますので、こちらとしては、夢を描くことは可能だと思うんですけども、その具体的な部分に関しましては、今後、先方さんともいろいろ協議を重ねていきたいと考えておりますので、今回は、こういった取組、事例としては載せさせていただいているというようなところが、今の現状として、載せる、今のところ精いっぱいなところで書かせていただいているかなと考えております。

長谷川委員

参考事例として載せていただいている、小金井市とメガロスの包括連携協定は素晴らしいことだと思うんですけども、今後の予定として、施設の地域開放とか活動への参加等に向けた取組を進めていく予定ですというところに対して、実際、具体的に今後、こういう取組をしましたというところを、発信もしていけるといいかなと思いますし、例えば実績づくりと、こういうことをやっているんですという取組の共有みたいなのところですかね、そこに力を入れていけるといいなというのは、そこはまさに小金井市ならではのところだと思っているので、各大学と、どういう内容で協定を結ばれていて、どういうところの取組を一緒にやっていくのかというのは、ち

よっと情報として見えないんですよ、市民側から。

なので、そこは情報発信の問題かもしれないですし、スポーツのところにもどれだけ期待できるかということも分からないところなので、でも、こっちの勝手な期待値としては、やっぱり連携しているんだから、何かスポーツのところで一緒にやっていけるんじゃないかと思うところはあって、これを盾にして、本当の意味での連携、その施設を使うということだけじゃなくて、それこそ大学生の力を借りるとか、そういうところも連携だと思うので、そこを具体的にこの計画の中で埋められるかどうかというのは、思いとしては、できれば入れ込みたいなと思うんですけど。

田中会長

49ページの基本方針3で、教育・スポーツ環境の充実というところで、金、物という話も出てきましたけど、場所ですね。一番下のところに、学校施設・民間施設の市民開放というのがあって、これは前から言っているんですけど、大学や他の施設を使うということも手なんですけど、ずっと言っていますけど、市内にある市立小中学校の校庭や体育館の運動施設の開放というのを、やはり強く推進してもらいたいなと思います。

場所がないし、やっぱり小金井市の手のうちの中にあるのは小中学校だと思うので、でも、これもまた、教育委員会の違うところの学校教育部の範疇の中なので、なかなか手を入れることはできないと思うんですけども、やはり教育長とかが、もうちょっと開放しなさいという、みんなの希望もあるわけですから、そういうことをして、なるべく、少ない施設や場所を開放していただければ、皆さんお喜びじゃないでしょうか。

学校としては、安全とかそういうことを考えると、入れたくないということも理解できます。でも、ハードルは、国立大学や私立大学よりも、もうちょっと手が入りやすいのではないですかね。大学とかに貸してくださいと言うと、それなりの理由がないとなかなかできないと思うんですよ。

それと、一方的に貸す、フィフティー・フィフティーの関係じゃないけど、一応、小金井市民に貸すんだから、小金井市に対して何か、代価とは言えませんが、そういうものが少しでもないと貸しにくいと思いますね。

研究や協力、教育に関して、こういうことをするから貸してくだ

さいと言うんだったら、一緒にやりませんかと言うんだったら貸せるけど、ただスポーツ少年団のために貸してくださいというのは、できないと思うのでね。できないわけではない、そうしたら使用料を取りますよみたいになっちゃうから、そういうものを働きかけないといけない。

だから、地域協定をするにしても、するんだけど、ではこういうことをするから、小金井市の持っているこういうものをどうですかとか、プールは、農工大の学生はシニアと同じぐらいにしますとか何とかとやっていただければまだ、テニスコートを貸すから、その代わりこっちをこういうのはどうですかというふうにしないと、ただ貸してくださいというのはハードルが高いんです。

だけど、まだ小中学校は、小金井市のものじゃないので、はっきり言うけど、ある程度、そこにも手を入れてもらえるといいんじゃないかなと思うんですけどね。

梅原部長

今、会長のほうからお話がありました、小中学校ですけれども、御存じのとおり、小金井市は本当にスポーツの施設に限られておりますので、我々としても、小中学校の施設をできるだけ使えないかなということとは常々考えております。

同じ教育委員会の中でもありますので、今後引き続き、この点については検討してまいりたいと思います。

それから、長谷川委員のほうから、地域包括連携協定のお話をいただいております。この協定を生かして、いろいろな取組をこれから始めていかなければいけない、お互いにとっていいことになってくれるとも思っておりますし、これまでの実績については、今回、この中にある程度、参考事例として入れさせていただいておりますけれども、もう一度精査してみまして、これまでの実績として、ここに追加できるものはないかというのは、もう一度見てみたいと思います。

田中会長

ありがとうございます。

そのほか、何か御意見、御質問等ございませんでしょうか。

長谷川委員

ありがとうございます。

地域連携協定のところは、私もちょっとランプを個人的にやっ

ているところもあって、すごく可能性を感じているので、この場でもコメントさせてもらっているんですけども、テクノスカレッジなんかも、地域連携協定を結んでいるんだなということを知って、なので、サッカー協会として、亀田学校長にコンタクトさせていただいて、サッカーグラウンドが府中にあるんですね。

そこを使わせていただきたいというのが最初の目的であったんですけども、そこからドアノックしていくと、向こう側からもむしろ、学校の生徒を使って、小学校のコーチングの経験を積ませたいみたいな形の依頼が来たりというところが、話としては進んでいるところがあるんですけども、それだと本当に、個別にテクノスカレッジとサッカー協会の間で、サッカーだけでやっている話になるので、せっかくこういう大きな協定を結んでいるのであれば、小金井市とテクノスカレッジというパイプの中で、サッカーは一つのツールとして使うということに乗っけたいなと思うので、せっかくこういう御縁もいただいたので、ここは一緒にやっていきたいなというところなんです。

なので、できれば包括連携協定のところをもう少し前面に出して、一緒にやっていけるといいなという思いがあって、コメントさせていただきました。

中島課長

そうですね。どうしても施設をどうにかしたいというところが先行していくんですけども、今お話があったような、施設だけではない、いろいろな関わり方があると思いますので、我々も、進められるようにしっかり検討していきたいと思います。

田中会長

そのほか、何かございますでしょうか。よろしいですか。

皆様から今、いろんな御意見をいただきましたけれども、これらの意見をもう一回、計画案に入れ込んで、ちょっと手直ししながら、パブリックコメントの案を作成することになっています。

それで、パブリックコメント案ができましたら、皆様のほうにもう一回、フィードバックをして、こういう格好でパブリックコメントをしますという報告になりますけれども、それまでの事務作業を事務局と私のほうでやりたいと思いますので、その後で、パブリックコメント案を皆様のほうに見ていただいて、また案を、何かここがおかしいというのがあれば、大幅修正はできないと思いますけど、

小幅修正、皆さんにほぼ認めていただければ、そうしたいと思いませんけど、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

田中会長 そういうことで、パブリックコメントの案を事務局と私のほうで詰めて、皆様のほうに御提示します。その後、パブリックコメントを市民の皆様からしていただくという段取りであります。

 ということで、議題（２）はこれで終わりになります。

 最後になりますけど、その他ということで、何かございますでしょうか。どうぞ。

(年末調整事務資料の確認)

田中会長 そのほか、何かございますか。

 事務局のほうは、もうよろしいですか。

 特にないようですので、本日の議事は全て終了いたしました。

 これをもちまして、令和４年度第５回スポーツ推進審議会を終了いたします。お疲れさまでした。

—— 了 ——